

北陸街道越中路の見て歩き～～風土・風景・風気

20.09.28to

本稿は目次の意味合いで作成
詳しくは目次にある各項目のファイルを参照
本稿は後日書直し予定

目次

- I 序
- II 県域の**近世歴史**
- III 宿場編.
 - 1. **今石動** 2. **東岩瀬**
 - 3. **滑川** 4. **魚津** 5. **泊**(予定)
- IV 広域編
 - 新川域一路一帯**、風土と民衆の歴史
 - 黒部川流域一帯**、風土と技術者の情念
 - 親不知一帯**(予定)、風土と地形地質
- V 経済編
 - 1. **大名の生活基盤** 2. 参勤交代費用(予定)
- VI 技術編
 - 1. **橋** 2. **用水** 3. **道** 4. **海路**

I 序論

1. はじめに

本稿の目的は、主に近世の富山県域における北陸道を介して地域の風土や歴史を展望することにする。

富山県は北に海、東・西・南に山で囲まれたこじんまりとまとまっている。県における自然資源としては山、水、森が、(近世以前の)社会資源としては農耕文化、民衆文化が特徴的である。こうした特徴の富山について歴史的に語る場合、時系列的に事象を追いかけるのが常道ではあるが、特定の切り口を持つての論もまた価値ありである。

ここでは、切り口として、街道というラインを軸にして生活の営みを地域論として展開することにした。街道が県域の骨格線として諸事象を展望するのであり、具体的には以下のように対象を設定した。

- ・街道の宿場町で特徴のある宿場町を対象、
 : 今石動、東岩瀬、滑川、魚津、境)
 - ・街道の領域を広げて広域を対象：新川の一路一帯
 - ・街道にまつわる経済事情を対象：大名の生活基盤
 - ・街道の建設技術面を対象 : 橋、道路
 - ・街道の水田風景を対象 : 用水
- 街道と町を広範囲にかつ自然条件との関連で探求としたい。

2. 問題の基礎を深めるために

- 1. 切り口として
 - ・街の域として；宿場、一路一帯

- ・町の風土・風情：まちなみ、建造物群、周辺地域
 - ・人間活動：生業、
 - ・歴史：地質的歴史、社会歴史、郷土歴史
 - ・環境：自然環境(地形地質地盤、気候、植生、他)社会環境
 - ・文化：一般文化、郷土文化
 - ・特徴行動：参勤交代、他
- ### 2. 街道概要
- ・主要街道：
 東海道、甲州道、中仙道、日光道、奥州道
 - ・準主要街道、信越と北陸の街道では
 北国道(信州追分から善光寺を経て高田)、
 北陸道(木本から福井、金澤、富山を経て高田)
- ### 3. 富山県域における北陸道
- #### (1)概要
- ・全長：越中路 100 数十 km 程、
 - ・ルート 宿場 12 所 宿場間距離 10km 程
 (津幡)、今石動、高岡、小杉、下村、東岩瀬、
 水橋、滑川、三日市、浦山、舟見、泊、境、
 (市振、糸魚川)
 - ・脇街道 1 今石動、砺波、小杉、富山
 かつての主要道、小村砺波が宿泊難
 - 脇街道 2 小杉、富山、水橋
 岩瀬ルートは分家富山を回避のため。
 洪水時、渡河は不可
 - 脇街道 3 三日市、入膳、泊
 かつての主要道、黒部扇状地枝流横断難
 - ・山ルート
 (下新川では主要。現在の県道宇奈月-大沢野線)
 西から東には大浦、鹿熊、坪野、下立、舟見の順
- ### 4. 関心事
- ・道；道が沿岸路はなぜ、
 なぜ親不知の海岸路を。山ルートはあったが。
 - ・河川の横断
 渡し舟：多くの河川は渡し舟
 橋：黒部扇頂部にある愛本橋(ハネ橋)、
 河口域：神通川の舟橋
 - ・街、集落： 縄文、そして弥生以降
 縄文；標高 200m 付近に集落形成
 上滝、大沢野、井波、八尾、他、
 低い標高でも難を逃れれば集落形成
 その後、低平地に進出

街は河川に沿って発展(河川航路)

沿岸の街；漁業、交易、 五大河川・中小河川
農村は広範囲に分布

- ・伝説：木曾義仲伝説：たいまつ牛、弓の清水、
義経伝説：平泉への逃避行、雨晴海岸、
主街道を避けた

古い街並み

県西部、今石動、小杉石破、
高岡域；金屋、吉久、
富山域；岩瀬、水橋、
新川域；滑川、魚津、三日市、境

- ・交易：日本海航路、
北前航路(北海道までは明治に繁栄)

・ルート(続)

川の横断 舟で横断、舟橋(富山の橋)、
跳ね橋(愛本橋)、

平野部では 海側に街が生成、
海側野町を貫くルート

親不知 山ルートでは山間部では小さな川で
も横断が困難。だから浜路

(3)参勤交代

- ・加賀大聖寺藩参勤交代ウオーク 2019年夏場
江戸から大聖寺まで、450km、17泊18日

・加賀藩の参勤交代

宿泊・休憩所 御旅屋(藩直轄)、本陣(民間)

当時 2500人、先遣隊 200-300人、海路でなく

陸路

春ごろに参勤交代、2週間ほどかけて。

費用は今でいえば数百億円。

A 1. おわりに

本来はシリーズ巻末に位置すべきではあるが、序
論編に持ってきました。

建築仲間で富山県内の北陸街道宿場町を 19年か
ら 21年の5回に分けてシリーズでまとめることにな
りました。編者もこれに参加し、あれこれと見て
歩いていると、もっと別の視点で、書いてみたくな
りました。それがこれ(本稿)です。最初は観光ガイ
ド的なことを思っていました、いつしか、地域の
住民お顔が見えるようイメージがわいてきて、土地
の歴史を風土として把握すると共に、民衆の歴史を
紐解いたわけです。いかがでしたでしょうか。

A 2 参考文献

各辺の核項目にて記している。主なものは；

- 1) 「北陸街道を往く」のシリーズ、新建富山支部、
機関紙「ゆるる」、19年5月、20年1月、20年10
月、21年5月、22年1月(予定)
- 2) 小森忠：「滑川宿まちなみ保存と活用」のシリー
ズ、新建築家技術者集団全国研究集会、その2～
4、2014、2016、2018
- 3) 永井康夫、他：「北陸域の本陣・御旅屋について」
のシリーズ、日本建築学会計画系論文集、

A 3 謝辞

本稿をまとめるにあたり、多くの方々からお話を
聞くと共に議論を重ねた。関係各位には記して謝意
を表す。

